令和5年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特2		学校名	県立水戸聾学校										学校長名	本橋 源己			
副校長名						教頭名	遠藤 典子					事務(室)長名	月井 敬一					
教職員数	教諭	50	養護教諭	3	常勤講師	10	非常勤講師	0	実習助手	4	寄宿舎指導員	16	事務職員	4	技術職員等	14	計	105
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数		
	幼稚部	2	0	2	0	2	1							6	1	4		
	小学部	4	3	6	3	2	0	4	4	1	1	1	1	18	12	10		
	中学部	5	4	1	0	4	3							10	7	5		
	高等部	2	5	1	0	5	5							9	13	6		
	専攻科																	
														計	43	33	25	

2 目指す学校像

- 安全・安心であたたかな学校
- 一人一人のよさや可能性を尊重し、互いに学び合い、高め合う学校
- 家庭・地域社会と連携し、信頼される学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項目	現状分析	課題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等の削減、各種計画や書式の見直し、ICTを活用した家庭との連絡・ペーパーレス化等により校務の削減を図り、働き方改革を進めている。 ・学校保健給食委員会(2回/年)、ヘルスケア安全委員会(3回/年)により、健康に関する内容の共通理解と適切な支援方法を検討した。また、学校(5回/年)、寄宿舎(5回/年)の避難訓練を実施するとともに、学校防災連絡協議会(1回/年)では、地域の防災関係機関と防災教育の在り方や防災体制について協議を行うなど安全・安心な学校づくりを進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの運用については職員会で十分な共通理解の必要がある。 ・よりきめ細やかな情報共有を図り、安全安心な学校づくりに尽力する必要がある。 ・SNSに関連したトラブルについて、保護者とも連携をさらに深めながら、適切な利

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを実施し、幼児児童生徒の状況を適切に把握している。また「もしもしボックス」を設置し、相談窓口を周知するなどしていじめの早期発見ができるよう努めている。 ・校門付近の道路における立哨指導により児童生徒が安全で安心な通学ができるように努めている。 ・スマホ家庭のルールづくり運動を実施し、スマートフォン等の適切な使い方やトラブル回避できる能力を身に付けられるようにしている。 ・インターネット上のトラブルやSNSの利用に起因した犯罪から子どもたちを守る対策として学部ごとに講座を実施している。 	<p>用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの利用、SNSのトラブルについては家庭との十分な連携が必要である。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握のための諸検査が円滑に実施できるよう、適正な実施計画の立案と検査器具の管理に努めている。 ・各学部の実態に応じた「授業のやくそく」を検討し、掲示・周知し、幼児児童生徒の学習態度の確立を図っている ・教科会により、主体的・対話的で深い学びがある授業づくりや三観点による学習評価の研修を行い、指導力の向上に努めている。また、魅力ある図書館となるような環境作りや、読書指導の充実を図っている。 ・「深い学びの実現に向けた協働的活動の在り方」を学校研究テーマとして設定し、昨年度から2年計画で各部ごとに研究・研修を行っている。 ・GIGA スクール構想に基づいた ICT 活用や校務の効率化を推進するための ICT 機器の整備、職員研修、技術的支援を継続して行っている。 ・指導力の向上のため、自立活動の定期的な研修を実施している。また、手話通訳とUD トークによる会議での情報保障や、手話の普及推進を目的として職員向けの手話の勉強会を開催している。 ・主体的な進路選択ができる児童生徒を目指し、職場体験や企業見学、インターシップの機会を設け、各部ごとに指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「主体的・対話的で深い学びがある授業づくりや三観点による適切な学習評価に努めていく必要がある。 ・ICT 活用においては、担当者の負担の平準化、技術支援の工夫などを検討する必要がある。 ・聴覚障害教育の専門性維持のために継続した研修が必要である。 ・職業観・勤労観の育成と自己理解を深めるため、各部や学年に応じた計画的な進路学習について考えていく必要がある。特にキャリアパスポート等の活用を工夫していく。

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、指導体制、指導方法、指導内容の工夫や研究に努める。 2 聴覚障害児教育の専門性を高めていくとともに、それらを確実に継承していくシステムの構築に努める。 3 個々の聴覚を最大限に活かすとともに、適切な情報伝達手段の併用により豊かな日本語を習得することで、言語力やコミュニケーション力の向上を図る。 4 将来の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるための系統性のあるキャリア教育の充実を図る。 5 地域や関係機関等のニーズに応じたセンター的機能の充実を図るとともに、地域社会に貢献する。

6 ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方に努めるとともに、気軽に話し合える職場環境を構築し、組織として対応する体制を充実させる。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
安全・安心な学校生活（寄宿舎も含む）の中で、健康で豊かな生活の促進	①幼児児童生徒や保護者等との基本的信頼関係の構築 ②安全管理・安全教育の推進（施設の安全点検、平時の危機管理、防災意識の向上、緊急時対応訓練等） ③SNSの適切な使用、いじめ防止の取組、発達段階や特性等を考慮した「考え、議論する道徳」の推進等、人権意識の高揚を図る ④体力向上にむけた個に応じた取組の工夫 ⑤養護教諭や栄養教諭と連携した健康教育や食育の推進
確かな学力を育む授業力・専門性の向上	⑥「指導の個別化と学習の個性化」を図った指導の充実と「協働的な学び」の推進 ⑦主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と3観点による学習評価の充実 ⑧時代の変化に対応した学習スタイルの充実（ICTの活用、プログラミング的思考等） ⑨目標設定シートにより根拠を明確にした自立活動の指導の充実（目標、内容の妥当性） ⑩多様な認知特性や学び方にあった指導の工夫（UDLの視点）
自立と社会参加にむけた教育の推進	⑪発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立（あいさつ、報告、生活リズム、時間管理等） ⑫各部の系統性を踏まえたキャリア教育の推進（キャリアパスポート活用の工夫） ⑬自己理解を深め、主体的な進路選択を促す職業教育やシティズンシップ教育の充実 ⑭地域資源を活用した学習活動（見学、実習等）や部活動の地域移行の推進 ⑮指導員間の連携による自治会活動の充実、主体性、協働性を促す生活指導の工夫＜寄宿舎＞
センター的機能の充実、地域・関係機関との連携	⑯間接的交流（オンライン等）を含めた効果的な交流及び交流学习の推進 ⑰「聴覚障害教育支援センター」としての支援体制の強化と理解啓発 ⑱各種相談支援（早期教育含む）等におけるアセスメントに基づく指導助言の充実 ⑲個別の指導計画の機能的活用と在籍校との連携を図った通級指導教室の充実 ⑳HPの充実とPTA、同窓会、各関係機関等と連携した活動の推進